



## SOLUTIONS

### 概要

#### ●技術的課題：

データセンターを利用するユーザー企業を対象に、ディスク・スペースを提供するストレージ・サービスを開始する。

#### ●ソリューション：

日立の大型ディスクアレイ・サブシステムと、プロセードコミュニケーションズシステムズのファブリック・スイッチによるSANの導入

#### ●成果：

- ・信頼性が高く、システム構築のコストも削減できた
- ・データの増加に柔軟に対応可能

インターネット・データセンター（iDC）事業を展開する株式会社ブロードバンドタワーは、日立ネットビジネス株式会社との協業により、同社のユーザー企業を対象にストレージ・サービスをオプションで提供しています。ストレージ・システムにはSANを採用、高い信頼性が求められるiDC事業を支えています。

## ブロードバンドタワーがSANの導入によって 可用性の優れたストレージ・サービスを展開

株式会社ブロードバンドタワーは、米国GlobalCenter社の日本法人、グローバルセンター・ジャパン株式会社として2000年2月に設立されました。米国GlobalCenter社は、インターネット・データセンター（iDC）を1995年に設立したことから、iDCの元祖といわれています。2002年4月に株式比率を変更、株式会社インターネット総合研究所（IRI）の連結子会社として現社名に商号変更しました。

ブロードバンドタワーの特徴は、通信事業者（キャリア）やメーカー傘下ではない、独立系のデータセンターという点です。そのため、特定のバックボーン回線、あるいはハードウェア機器に縛られることなく、常にその時点で最良な技術を提供できるというメリットがあります。また、ユーザー企業がキャリアによる制限を受けないため、利用者のニーズに合わせた柔軟な接続環境を構築できる点も見逃せない特徴です。

その安定した運用実績と技術力は、インターネット上でeビジネスを展開するいわゆるドットコム企業から、エンタープライズ・システムの拠点として利用する大企業まで多くの企業から高い信頼を得ています。現在では国内最大のインターネット・ポ

ータル・サイト「Yahoo! Japan」をはじめ、40～50社の企業がブロードバンドタワーのデータセンターを利用しています。

### サービスメニューの充実した インターネット・データセンター

ブロードバンドタワーのデータセンターにおける基本サービス（19インチラック、ケージ）は、停電時バックアップ電源、床吹き上げ空調などの設備を備えた耐震構造の建造物内で、24時間体制の有人監視、ITVカメラによるモニタリング、タイムラプスVTRへの録画などの強固なセキュリティ監視体制で運営されています。

基本サービスに加え、24時間365日体制でスタッフを配置する運用サポート・サービス、セキュリティ・ホールを検査し、対策方法を報告したり、不正アクセスを24時間365日監視したりするセキュリティ・サービス、IPネットワーク、アプリケーション、セキュリティ・エンジニアリングなどの分野のハイレベルな専門知識を持ったIRIのスタッフにより、ユーザー企業のビジネスを支援するプロフェッショナル・サービスなど、さまざまなオプション・メニューも用意されています。



## 日立ネットビジネスと協業により ストレージ・サービスをいち早く展開

ブロードバンドタワーでは、そうしたオプション・サービスの1つとして、データセンターを利用するユーザー企業を対象にしたストレージ・サービス「ディスク・オン・デマンド」を展開しています。これはデータセンター内に設置されているユーザー企業のデータ増大化に迅速に対応すべく、株式会社日立製作所のデータセンター運営子会社、日立ネットビジネス株式会社と協業により、他社に先駆ける形で2000年に開始したものです。

同サービスでは、データセンター内に大型ストレージ・システムを設置し、ユーザー企業にディスクを提供しています。最大の特徴は、「ディスク・オン・デマンド」というサービス名称が示すように、ユーザー企業がその時点で必要とするディスク容量に柔軟に対応できる点です。例えば、今月は100GBしか利用しないが、来月は500GBを利用する予定があるという場合でも対応可能になっています。

もちろん、ディスク・スペースを貸し出すだけでなく、24時間365日ディスクのモニタリングを行い、ディスク障害時にも迅速に対応できる体制が整えられています。

## 増え続けるデータに十分対応可能な 高い可用性と性能を支えるSAN

ストレージ・サービスを開始するにあたり、ブロードバンドタワーと日立ネットビジネスは、データセンター内に日立製作所の大型ディスクアレイ・サブシステム「SANRISE 2800」

を設置しました。SANRISE 2800とユーザー企業のサーバー・コンピューターの間は、ブロードバンドコミュニケーションズシステムズのエンタープライズ・ファブリック・スイッチ「SilkWorm 2800」を介し、SANによって接続されています。SANの高い可用性と性能をSilkWormが支えています。

SANRISE 2800は最大72TBまでのディスクが増設できるため、増え続けるデータに十分対応可能です。将来的には、遠隔地にあるユーザー企業内のサーバー・コンピューターをファイバー・チャネル（FC）で接続し、ディスク・スペースを提供することも可能であるなど、極めて高い拡張性を備えています。

同社では、ディスク・オン・デマンド・サービスに加え、大容量のテープ・ライブラリを設置し、24時間365日の監視・保守でデータをバックアップする「テープ・バックアップ・サービス」など、高い信頼性を実現するサービスも提供しています。

## さらなる需要増を期待し マーケティング活動を展開

ストレージ・サービスを開始して2年あまりが経過しましたが、ユーザー企業は順調に増えています。ブロードバンドタワーと日立ネットビジネスでは、自社でストレージ・システムを構築する場合に比べ、はるかに安全性が高く、コストが削減できるサービスとして認知され始めたため、と分析しています。今後は、ストレージ・サービスの積極的なマーケティング活動を予定しており、さらなる需要増を見込んでいます。